

再生可能エネルギー先駆けの地 ふくしまイノベーション戦略推進地域

再生可能エネルギー先駆けの地ふくしまの実現に向けた
産業集積と持続循環型社会の構築

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…福島県再生可能エネルギー
関連産業推進研究会
学…福島大学、会津大学、
日本大学工学部、いわき明星大学、
福島工業高等専門学校
官…福島県、福島県産業振興センター
金…東邦銀行

地域イノベーション戦略

東日本大震災及びそれに伴い発生した原子力発電所事故からの復旧・復興を目指す福島県を「再生可能エネルギー先駆けの地ふくしま」として再生するため、次世代太陽電池・地中熱利用技術など世界最先端の研究開発等によりイノベーションを創出し、関連産業の集積を図ります。また、これらの成果を積極的に導入し、県内にある豊富な自然エネルギーを効率的に利活用して、災害に強く県民が安心して生活できる持続可能な循環型社会の実現を目指します。



プロジェクトディレクター
服部 靖弘

略歴：北芝電機代表取締役社長
北芝電機相談役
福島県再生可能エネルギー
関連産業推進研究会 会長

震災と原発事故を経験した福島県は復興ビジョンの中で「再生可能エネルギーの飛躍的推進による新たな社会づくり」を挙げています。その実現に向けて県内の産学官金の組織が連携して再生可能エネルギー分野の研究開発と人材育成、雇用創出に取り組みます。復興への貢献と若者が未来に向かって笑顔で働くことができる仕事の創出が目標です。

事業の内容

【全体計画】

「再生可能エネルギー先駆けの地ふくしま」の実現と、「災害に強い持続可能な循環型社会の形成」を目指して、県内の産学官金が連携して、研究開発、人材育成、知のネットワークづくりに取り組んでいます。これらの研究開発の成果を企業等に積極的に技術移転することで、県内の産業の活性化と、イノベーションエコシステムの構築を目指しています。主な取組は次のとおりです。

1. 再生可能エネルギー技術の研究開発

県内4大学(※)が次世代太陽電池、小型風力発電、地中熱利用、熱電発電、スマートグリッド情報基盤の研究開発に取り組めます。

※福島大学、会津大学、日本大学工学部、いわき明星大学

2. 人材育成

地域で研究開発、再エネの導入、事業化等を推進していくために必要、広範囲なスキルを持った人材の育成を推進します。

3. 産学官連携推進体制の構築

「再生可能エネルギー先駆けの地」を実現するためのイノベーションエコシステムを構築し、拡大・発展させます。

4. 成果の被災地復興への適用

事業の成果を被災地の復興に適用するための活動を推進します。

【主な成果】

1. 研究開発の成果

すべての研究テーマが事業化のステージに到達し、産業界への技術移転が活発に行われています。



福島大学がインクジェット印刷パターンングにより開発した世界初の次世代太陽電池



いわき明星大学が開発した熱電変換式温度差発電機



福島大学がコンソーシアムと開発した縦型5kW風力発電システム実証機



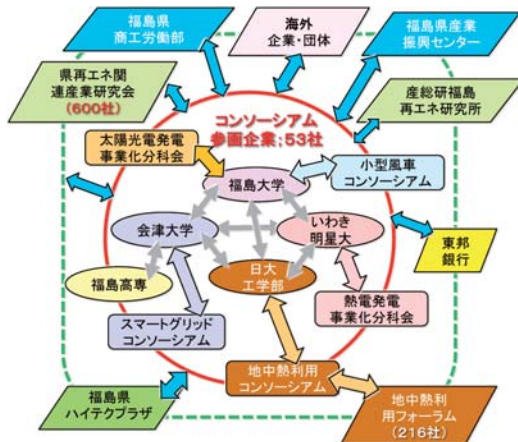
日大工学部と地域企業が共同開発した住宅用地中熱ボアリングマシン



会津大学とコンソーシアムが開発したエネルギーマネジメントシステム

2. 事業化の進展とイノベーションエコシステムの拡大

既に50以上の企業が事業化に参画しており、更に県外、海外を含めて拡大する方向にあります。地域の大学が起点となって強力なイノベーションエコシステムが構築されつつあります。



地域の大学が起点となって地域で次々とイノベーションが生み出されています。

3. 成果の被災地復興への適用

被災自治体における人材育成を含めて、成果を被災地の街づくりに適用していくプロジェクトが進行中です。



本事業の成果が被災地の復興街づくりに反映されています。